

令和4年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修参加報告

フィールド科学系部門生物生産技術班

技術主任 木原 真司

1. はじめに

中国・四国地区国立大学法人及び国立高等専門学校機構の技術職員相当の職にあるものに対して、その職務遂行に必要な知識、及び新たな専門知識の習得などを目的とする。

2. 期間・場所

期間：令和4年8月24日（水）～26日（金）

場所：鳥取市 鳥取大学

参加者 40～50名程度

4. 講習内容

一日目 開講式・オリエンテーション 講義の受講

二日目 講義の受講 現地視察

三日目 講義の受講 閉講式・連絡など

3. まとめと感想

昨年まではオンラインでの開催だったが、感染状況などを踏まえ、消毒・検温・体調不良などの確認をすることで研修の開催を決めたことの説明があった。

その後 JAXA と岡山大学惑星物質研究所と米子工業高等専門学校のそれぞれから三名、宇宙を題材とした講義を受けた。自分の専門とは違ったが、普段聞くことのできない貴重な発表を聞け、とても充実した講義だった。

二日目は国際水準 GAP に関する取り組みについてと、SDGs を意識した環境に負担をかけない食料システム戦略の説明があり、その後現地視察に向かった。

三日目では、カーボンニュートラルを題材に抗議と、鳥取県日野郡日南町農林課の方より脱炭素社会に向けた SDGs 未来都市に関する説明があった。

一日目の宇宙に関する講義は好奇心をくすぐられる非常に有意義な抗議であったし、二日目からの講義も、生産性だけを求めるのではなく、持続性のある社会を実現させるため様々な取り組みを紹介され、今後何かを決める上での大きな指針になると強く感じた。

今回の研修を終えて一番感じたことは、現地開催に勝る刺激は無いなという思いだった。オンラインでも開催は出来るが、その場に集まった人との交流や、会場の雰囲気など、人とのコミュニケーションはとても有意義だと改めて感じた。出来ることなら、今後も現地開催が続くよう切に願う。